

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	永田診療所グループホーム
(ユニット名)	のぞみ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県菱刈町
記入者名 (管理者)	中園三宏
記入日	平成 19年 12月 30日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民、地元の幼稚園生、小学校児童との触れ合い交流を積極的に実施している。集落の一大行事である六月灯祭りの参加、地域高齢者との交流会「ふれあい悠遊」の開催は今年で第8回目、子供たちの学習発表会や運動会の見学、子供たちのホーム訪問で楽しい語らいをしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	『今日も楽しく！ゆっくり やさしく 笑顔で』を基本理念に掲げて室内に掲示、職員は毎朝読むように習慣づけている。また、『永田診療所グループホーム倫理綱領』10項目も室内に掲示して、機会ある毎に職員は読んでいます。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の基本理念は、月1～2回発行している広報誌『ゆっくり便り』にも明記して、小学校、幼稚園、公民館、駐在所などへ配布していますがとても好評です。『ゆっくり便り』は10月現在91号の発行になり、受け取る家族や地域の方々には発行されるのを楽しみに待って下さっている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	永田診療所の敷地内で開催される6月灯祭りや、「ふれあい悠遊」には、隣近所も気軽に参加してもらうように声かけしている。グループホーム開設を機に立ち上げた地域高齢者交流会「ふれあい悠遊」は大好評の中、恒例の行事として今年6月で第8回目を迎えた。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	上記のほか花見、地域の運動会、春祭り、文化祭への作品展示などを通じて、積極的に楽しく交流している。利用者が楽しいと感じて希望される地元の行事参加はなるべく実行していくように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに役立つように、また地域全体が盛り上がるように要請があれば喜んで応じている。例えば、地域文化祭への作品展示、運動会や駅伝競走、小学生の持久走大会の応援などはなるべく全員で参加して喜ばれている。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価実施の意義については、十分理解しているが、評価を活かす具体的な改善の取り組みはしているものの、完全に出来ていないのが実情です。	○ 昨年「要改善」であった「注意の必要な物品の保管・管理」では、「決められた場所ではなく手の届かない場所」にするなどは改善しましたが、まだまだ今後取り組むべき改善に努めたいと思っています。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、多忙の中利用者家族代表、地域住民代表、町介護保険係、地域包括支援センターからの出席を得て、毎回とても有益な話が聞けて感謝しています。中ではかねて知ることの出来ない他の施設の実情を参考にした改善点などもあり、助かっています。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成18年度に立ち上げた「伊佐地区地域密着型サービス連絡協議会」で、大口市、菱刈町介護保険係と話し合いの機会があり、市町村とともにサービスの質の向上を目指している。	○ 同協議会主催で大口市、菱刈町が協力機関となり、去る10月25日には「認知症ケアにおける基本的視点について」の研修会には10名が参加した。今後もこの協議会を有効に利用していくつもりです。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、残念ながら学ぶ機会は無である。	○ 今後利用者個々の必要性が生じたら関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援するつもりです。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止・養護者支援法」が平成18年4月1日から施行されたことは知っているが、職場で実感がなく他人事のように感じているのが実情です。昨年10月20日開催された菱刈町地域包括支援センター主催の「高齢者虐待についての意見交換会」には参加した。	○ 今後機会ある毎に勉強したり、話し合いを重ねながら、グループホーム内での虐待が見過ごされることがないように十分な注意を払い、完全な防止に努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	3年前、認定更新で「要支援」と認定された利用者が泣きながら退居して、大口病院認知症病棟へ入院された際、理解、納得されるまで数日を要したことがあったが、スタッフ全員で説明励ましの言葉かけをしたのを思い出します。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不満・苦情を何でも言える雰囲気作りは、日常スタッフ一同心得ているが、これまで運営に反映させるような意見・不満・苦情は聞かれていない。	○ まだまだ雰囲気作りに工夫が足りない面があるのかも知れないので、今後の課題としていろいろ取り組んでみたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が入居費の支払いに来られたり、随時の面会の際にこまめに報告はしているが、毎月1～2回発行している写真入り広報誌『ゆっくり便り』は好評で、毎月送付されてくるのを楽しみに待っていると、家族から言われている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、認定更新時の担当者会議は勿論ですが、何しろ戦前から開業している診療所と患者を通じた厚い信頼関係で、管理者、スタッフに気軽に話せる雰囲気は貴重である。しかし、これまでホーム運営に反映させるような不満、苦情例が聞かれたことはない。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフは気軽に話が出来る雰囲気は、常時出来ているので、すべてのことがスムーズに運ばれている。食材、家具、不足している機材、家庭用品の購入、故障の修理など問題なく順調である。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ほとんどスタッフ同士の話し合いで交代勤務がなされている。利用者の通院付き添いなども問題なく勤務の調整がされており、これはスタッフの和の成果であると確信している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年5年ぶりに1名の離職者があり、新しく地元から採用されましたが、特に問題なく、利用者のダメージはなかった。入居者、スタッフ共に同じ地域内の顔なじみなので、信頼関係がスムーズに出来ているようである。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に作られた計画はないが、寄せられる研修会の案内は、すべて回覧して、過密な勤務スケジュールに影響のない範囲において、出来得る限り、希望を優先させたり、受講の機会を与えている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度設立された『始良伊佐地区認知症グループホーム連絡協議会』では、去る9月29日第1回職員研修会が開催され、早速3名が受講して、現在パワーポイント資料を回覧しているところである。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	限られた人数での勤務スケジュールの中で、ストレスのある事は十分察せられるが、ストレス軽減のための工夫や環境作りまでこまかく取り組んでいないのが実情です。	○	今後他の施設の取り組み状況などを聞いたり、これに関する研修会などを通じて環境作りに努めていきたいです。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場へ足を運ぶ機会が少ないため、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握出来ていないことをいつも心苦しく思っている。	○	去る8月23日理事長死去で新理事長のもとに、今後の努力目標にしていきたい所存です。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が困っていること、不安なこと、求めていることなどは、入居生活をする上で、最も基本的なことなので、入居前に本人からこまめによく聞いて受け止めるように十分努めているつもりである。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者が認知症であることなどから、家族との話し合いはとても大事なことになるので、家族との信頼関係の上になるべく時間をかけて話し合い、受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同じ医療法人の精神科大口病院の専門医の診察、意見も入れて、認知症デイケアの利用も生活の中に取り入れている。現在3名が利用中であるが、効果は十分見られている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前は昼食を3～4回一緒にされたり、入居後は家族とは電話を通じた連絡や面会時を利用して、こまかく話し合いしながら、毎日の生活を工夫している。あくまでも利用者本人の希望を優先することは大事なことで考えている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	絶えずやさしく声かけしながら、掃除、洗濯、食事の後片付け、食材の買い物、調理など利用者が出来ることはなるべく一緒にしたり、そば打ち、味噌造りは昔取った杵柄でスタッフが教えて貰いながら、楽しく笑いながら支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望の強い利用者など家族の協力なくしては解決されないこともあり、家族とのこまかい連絡は必要であり、出来得る限り家族と一緒に支えていく関係を築くよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話による連絡、面会時の話し合い、家族会の利用、「ふれあい悠遊」、敬老会、年忘れクリスマス会などイベントへの参加を呼びかけることで支援できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供やひ孫などの肉親は勿論、友人、知人などの面会を大歓迎する雰囲気作りは十分に出来ていると思う。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	歩行の自立した利用者が車椅子の介助をしたり、食後の後片付けを手伝うなど、利用者同士が支え合う雰囲気作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状悪化で退居入院したら、スタッフが交代で見舞いに行くとか、運悪く死亡した時は、当然のこととして、全スタッフが通夜、葬儀に参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症という壁で、全員には困難な場合があるが、入居時の本人・家族の希望、意向になるべく沿うように努めているが、順調に把握出来ているかどうか自信はない。	○	認知症を前提にしたひとり一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握の方法などスタッフ全員でこれからまだまだ勉強したいものです。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	戦前から開業している診療所と同じ地域からの利用者が多い関係で、数十年前からの生活歴、家庭環境も熟知しているつもりであるが、まだ把握しきれない面が多いようだ。	○	特にこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めていきたいと考えている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者各人、軽重はあるが、病気で治療中の方ばかりなので、服薬、食事、排泄状態などこまめに記録しながら総合的に把握に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症である本人の意見や希望も十分取り入れ、また家族の意向希望も入れて介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほぼ3ヶ月毎に見直しをすることになっているが、本人の有する病気の悪化の場合は、主治医と家族の話し合いだけで入院などの対応をしている。	○  変化の激しい病気を持つ高齢者のため、短期間毎に見直しされた介護計画が完全十分であるとは自信がなく、今後の取り組み課題としたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフは日々の様子をこまめに記録しているが、まだ情報を共有出来ていない面が多く、介護計画の見直しに活かしていないようである。	○  せっかくこまめに記録しているので、今後情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅願望が強く夕方近くになると、興奮状態となったり、幻覚・妄想がひどくて、面会の家族と話し合い、希望に応じて、同じ法人の精神科専門医の診察を受けて指示をもらうなどの支援をしばしばしているが、効果は十分にみられている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員には運営推進会議の委員にもなってもらっているほか、近くの駐在所には毎月発行されている広報誌を届けて、無断離所に備えて協力を求めている。また、昨年夏の水害で避難救助をされた地元消防団とは、利用者も知り合いになったり、職員とはこまめに懇談して支援のお願いも続けている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在特に必要ではないが、併設の居宅介護支援事業所のケアマネジャーとはスタッフがよく話したり、また、通所リハビリテーションの誕生会には、毎回招待されて参加している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向もなく、必要性もないために、現在、町の地域包括支援センターとは協働していない。	○	入居されて以来、全く連絡のない家族など、今後地域包括支援センターの指導も受ける必要性が出てくる可能性が考えられますので、有効に利用したいものです。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当グループホームは診療所に併設されている関係上、適切な医療に関しては全く問題はないものと思われま。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同じ医療法人の精神科大口病院の専門医とは、こまめに連絡がとれており、現在、症状の重い利用者3名は週2回、精神科認知症デイケアに通所して効果を上げている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットには1名の准看護師が配置されており、主治医と連携しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の病状が悪化した場合、管理者でもある併設診療所の主治医の紹介で入院する関係で、情報交換はこまめに出来ているし、入院中もスタッフがこまめに病状見舞いに行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設の診療所があり、各ユニットに1名の准看護師がいるため、入居当初から「病状が悪化して入院しても退院後は在宅でなく、このホームで引き続きよろしくお願ひします」と希望される家族には、その通り十分対応できている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	平成12年4月開設以来、4名の看取りを経験したが、今でも家族から感謝の言葉をもらっており、スタッフも心の準備は出来ている。また、所外の研修会には機会ある毎に参加させている。	○	数年前、近くのグループホームと合同で「看取りについて」と題して、所内研修会を開き、以来、スタッフが自信を得たこともあり、今後も勉強会を続けてみたいものです。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまで更新認定で要支援になった方1名、長期 入院で退居された方が5名おられるが、すべて十 分な話し合いで住み替えによるダメージは全くな かった。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b></p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	<p>日常の言葉かけには、全職員が特に気を遣ってお り、記録等の個人情報の漏れなどもこれまでまっ たくない。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり 、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	<p>当グループホームの基本理念である『今日も楽し く ゆっくり やさしく 笑顔で』をいつも念頭 に置きながら、なるべく利用者が自分で決めたり 納得しながら暮らせるよう支援に努めている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	<p>入浴以外はほぼひとり一人のペース、希望に沿っ て支援していると思いますが、入浴だけは職員側 の勤務の都合が優先されて、うまくいっていない ようです。</p>	<p>○ 数年前から、入浴時間については、利用 者にアンケートしていますが、たまには 朝風呂に入りたい、寝る前にとられる 方もおられますが、特に強い希望でない ので、そのままにしています。今後の検 討課題にしていきたいです。</p>
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている</p>	<p>ホームから200m位の近くに理美容店があり、本 人の望む時にはいつでも行けて喜ばれている。ま た、出張で来られることもある。現在近くの理美 容店は1店だけで、本人の望む店ではないが、順 調ですのでこのままを続けたい。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る利用者と出来ない利用者の差が大きいです が、出来る方は食材の買い出しから調理、後片付 けまでされて、生活のリズムを作っている。な お、出来ない利用者にも声かけはしていますが、 無理強いはいしない方針です。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこは皆無ですが、ビールは缶ビールで楽しんでおられる利用者も1名いる。おやつは自由ですが、糖尿病との関係で食べすぎには注意している。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	早め早めの排尿誘導で、入居当初オムツの使用だった方が、入居後オムツなしになって喜ばれたこともある。なるべく全員が排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄出来るように支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間は職員の勤務の都合に合わせていることが多く、ひとり一人の希望やタイミングに合っていないようで、いつもスタッフ一同心苦しさを感している。	○ 今後本人の希望に合わせた入浴は、今後の検討課題です。又、入浴を嫌がる利用者はその気持ちをよく理解して、入って欲しいというスタッフの熱意を根気強く伝えていきたいです。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	早寝する方、遅くまでテレビを見て遅寝する方など規制せずにいるので、その時々状況に応じて、安心して眠っているようである。	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事、掃除に生き甲斐を感じて積極的にされる方、塗り絵、裁縫の好きな方、テレビの好きな方などひとり一人の楽しみを優先して、気晴らしの支援をしている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、所持能力のある利用者には、お金を使えるように持たせて、パンや衣類などの訪問販売車や近くの店で結構楽しく使っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日はなるべく外出散策に誘って気分転換と適度の運動をしている。幸いホームに隣接した古い神社、屋根付きゲートボール場、花菖蒲園があり、気分の転換には最適の散策コースになっている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事で桜の花見、ソーメン流し、大型スーパーでの買い物や食堂での昼食などを組み入れて楽しみに実行している。家族が面会時に連れ出されることはしばしばです。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族からはよく電話がかかってきて話されたりしている。本人から電話する時はなるべく介助している。また本人は手紙を書けないので、広報誌『ゆっくり便り』を毎月送ったり、入居費請求時に近況を一筆添えるように配慮している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人等の面会時はゆっくりと居心地良く楽しくお話出来るようにスタッフがお茶を出したり、部屋の雰囲気作りなど心配りをしている。	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行いません」の室内掲示には、禁止の対象となる具体的な行為が記載されており、また、身体拘束廃止マニュアルを作成して全職員が身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来、居室や日中の玄関に鍵をかけたことは一度もなく、鍵をかけないケアはスタッフ全員が理解して取り組んでいる。一昨年の外部評価で指摘された玄関上部の内鍵も現在は外されている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子の把握は、昼間は当然であるが、夜間は特にトイレ行きの転倒やベットからの転落に気を付けて安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物等の保管場所は決められた場所に保管され、危険を防ぐ取り組みをしている。洗剤については、前記の玄関上部の内鍵はずしと同様に一昨年の外部評価で指導された事項で、今では危険物扱いにして保管されている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	けが、転倒、火災等の緊急事態の対応等のマニュアルが、室内掲示されており、スタッフはその通り出来ている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	19.5.28の所内研修では、消防署員を講師に迎え、「食べ物による窒息の一次救命処置」と「心肺蘇生法とAEDの使用」に全員参加。19.9.5(救急の日)大口伊佐医師会主催の研修会「実技 AEDを含む心肺蘇生法」には4名参加。	○  AEDは併設の永田診療所に常備。当ホーム管理者はAHAの Healthcare Provider の資格あり。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は年2回実施して定着しているが、夜間の訓練が未実施。昨年夏の県北部水害で地元住民や地元消防団の助けをもらったのがきっかけで、今年7月の運営推進会議では消防団長の出席を得て有益な講話をしてもらった。	○  夜間の火災、水害などの災害が心配なので、夜間の避難訓練が今後の取り組みたい課題であると認識している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	年2回の家族会並びに面会時を通じて、高齢に伴う病気の急変、転倒事故など管理者を先頭に全員でこまめに話し合っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の食事、服薬、排泄の状況を記録して、ひとり一人の体調の変化や異常の発見に努めて、何か気付いたら管理者兼主治医に連絡して、これまでうまく対応出来ている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットには准看護師が1名配置されているが、ひとり一人が使用している薬の目的、副作用などについて全員が理解しているかは断言出来ない。	○  薬の用法と用量は投薬袋に明記しているが、薬の目的、副作用については、今後研修、指導を繰り返す方針です。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響については、全職員が大略理解しており、適度の運動、十分な水分摂取、繊維食物などの摂取を心懸けている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内並びに義歯の清潔保持は、声かけや半介助で支援している。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のある方ない方、或いは糖尿病の方などひとり一人の状態に応じて、時々併設デイケアの栄養士に相談しながら、食事には配慮している。	○  ひとり一人の摂取水分量の記録がなされていないので、今後記録に取り組んでみたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザワクチンの予防接種は毎年11月に全員実施して、これまで流行が見られたことはない。他の感染症対策の基本マニュアルは出来ているが、対応の取り決めはない。	○  今後、感染症全般に対する対応の取り決めや職員の研修に取り組んでみたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	平成12年4月開設以来、食中毒未発生で調理担当者の手洗いや新鮮な食材の保管・使用など衛生管理には完全を目指して努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口には、段差はなくスロープ式になっており、車椅子の出入りはスムーズである。また家族、近隣の人たちも気軽に来訪してもらっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口には、プランターで季節の花を育て、食堂には、散策中に採取した草花を飾るなど居心地良く過ごせるよう、入居者を含めた全員で楽しみながら工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には二カ所にソファを置き、気の合った利用者同士が楽しく語れるように工夫して、うまく作動している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は本人の希望を入れて、タタミ敷きにしたり、使い慣れた好みのものを置くなど、本人家族の希望を十分活かして居心地良く過ごしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室は部屋毎に、廊下と食堂は診療所外来待合室と連動して温度調整が出来るようになっており、外気温を観測しながら対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	段差はなるべくなくして、手すりを利用して室内 を移動したり、視力障害の方が転倒しても衝撃が 少ないようにタタミにしたり、また、転倒を予測 しながらスタッフがこまめに見守りするように心 懸けている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	視力障害や歩行障害の方もいますが、室内の生活 に関しては、これまで混乱や転倒例はなく平穩に 経過している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ホームの内庭にある『ゆっくり菜園』では野菜作 りをして、草取りや夕食前の野菜採りを楽しんで いる。また、玄関出口ではプランターで花を植え て育てている。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域住民、地元の幼稚園生、小学校児童との触れ合いには、特に力を入れて取り組んでいる。子供たちとの触れ合いではホームへの訪問で、昔話を聞かせたり、肩もみ、車椅子の試乗や介助体験などで一緒に遊んだり、学習発表会、運動会への参加見学、永田診療所敷地内の屋根付きゲートボール場で開催される6月恒例の地元高齢者との交流会『ふれあい悠遊』や六月灯祭りなどの参加で積極的に交流を深めており、利用者も顔なじみが増えることをとても楽しみにされているのがよくわかります。また、地域の方々からは、年間を通じて季節の野菜や西瓜、果物の差し入れのほか、観賞用にと手作りの菊などの盆栽をわざわざ持って来られることがあり、利用者だけでなく、管理者、職員全員が地域との交流の成果を実感するとともに心から感謝しているのが当ホームの実情です。